

2021 年度

シラバス〔基礎領域〕

佐久大学別科助産専攻

【基礎領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
助産学概論	901	前期	必修	1単位 15時間	講義
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）、田中由美子（TANAKA, Yumiko）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
授業終了時に質問を受け付ける。 あるいは研究室（5号館3階301）在室時の時間で調整する。希望がある場合は要事前連絡。a-yumoto●saku.ac.jp					
授業の概要					
助産学のコア科目として位置づけ、助産の概念と意義、職業としての助産師の身分、助産師のアイデンティティの形成、母子保健と助産及び助産師教育の変遷と現状、助産師と倫理、助産学を構成する理論等を理解し、助産師の役割と責任について認識する。					
到達目標					
1．出産・助産の変遷、助産の概念と意義について説明できる。 2．リプロダクティブヘルス/ライツの定義、課題について説明できる。 3．助産診断・技術学、助産過程の概要、助産ケアを支える概念・理論について説明できる。 4．職業としての助産師の定義と業務、身分、役割と責任について説明できる。 5．助産師に求められる能力（コンピテンシー）は何かを説明できる。 6．助産師教育の現状、国内外の助産師に関連する団体について説明できる。 7．助産師の倫理的感応力の重要性を述べることができる。 8．助産ケアにおける多様な文化の理解の必要性を述べることができる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
これから学ぶすべての科目の基本的な考え方となる科目である。 「助産管理」と重複・関連部分も多い。					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1	“お産”“助産”の概念、リプロダクティブヘルス/ライツ	講義	湯本		
2	助産診断・技術学の概要、助産過程、助産を支える概念・理論	講義	湯本		
3	助産師の定義と業務	講義	湯本		
4	助産師のコンピテンシー	講義	湯本		
5	助産師教育、助産師のキャリア発達、助産師に関連する団体	講義	湯本		
6	助産師と倫理	講義	湯本		
7	国際化と助産師	講義	田中		
8	お産の歴史と文化（プレゼンテーション）	演習	湯本		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 事前・事後学習：教科書該当箇所・配布された関連資料をよく読むこと。(1時間) 課題学習：課題レポートのテーマに従い、積極的に文献や書籍などを手に取り、参考にしながら、自分の考えをまとめること。(4時間)
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 テキスト：助産学講座1 基礎助産学[1]助産学概論 医学書院 参考文献：助産師業務要覧第3版 基礎編 日本看護協会出版会 そのほか適宜、授業内で紹介する
成績評価の方法・基準 課題レポート 80% ＊課題は初回に提示する。 ＊レポート作成では、文献等のコピーのみでは評価しない。必ず自分の考えを自分の言葉でまとめること。 プレゼンテーション 20%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 課題レポートは成績評価終了後、返却する。 必要を認めた場合、面談指導する。
担当教員からのメッセージ 助産師を取り巻く環境は変化していきます。助産師としての期待される役割、義務、責任は何か、考え続けましょう。アンテナを張り、女性、子ども、母子、家族に関する多くの課題や問題に積極的な関心を持ち、関心のあるテーマに対して、主体的に学習していきましょう。

【基礎領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
生殖の基礎科学	902	前期	必修	2単位 30時間	講義
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○木村 薫（KIMURA, Koru）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
授業終了後に教室で質問を受け付ける。					
授業の概要					
生殖器の形態・機能的特性、遺伝と遺伝疾患、妊娠の成立と維持、性の分化と発達、胎児の発育・胎盤機能、母子と免疫、など助産学の基礎になる医科学について学修する。					
到達目標					
1. 生殖の形態・機能的特性について説明できる。 2. 妊娠の成立過程と維持機構について説明できる。 3. 胎児の発育、性の分化と発達のプロセス、胎盤機能について説明できる。 4. 遺伝の仕組みと遺伝疾患について説明できる。 5. 母子の免疫機能について説明できる。 6. 妊娠・分娩期・授乳期における母子と薬剤の影響について説明できる。 7. 女性のライフサイクル（思春期・成熟期・更年期）に起こる婦人科的疾患について説明できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
助産学と助産師の実践を学ぶための基礎となる科目である。すべての科目に関連する。周産期のケアおよび女性のライフサイクルにおけるケアを理解するための基礎的知識を確実なものにしてください。					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1	性の分化と発達：男女性器の発達過程	講義	木村		
2	生殖にかかわる形態的特性：男女性器の形態・機能、産道の構造 正常編	講義	木村		
3	生殖にかかわる形態的特性：男女性器の形態・機能、産道の構造 異常編	講義	木村		
4	間脳・下垂体機能と卵巣機能	講義	木村		
5	妊娠の生理：妊娠の成立と維持（不妊症・不育症を含む）	講義	木村		
6	妊娠の生理：妊娠による母体の変化	講義	木村		
7	妊卵の初期の発育（胎芽期まで）と胎盤形成	講義	木村		
8	妊娠経過に伴う胎盤の発育・機能と異常	講義	木村		
9	遺伝と遺伝疾患（1）	講義	木村		
10	遺伝と遺伝疾患（2）	講義	木村		
11	母子と免疫	講義	木村		
12	母子と薬剤	講義	木村		
13	ライフサイクル各期における健康問題（乳房・子宮・卵巣の病気）	講義	木村		
14	ライフサイクル各期における健康問題（更年期障害等）	講義	木村		
15	まとめ	講義	木村		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
母性領域における基礎知識は解剖生理も含め復習し、授業に臨むこと。 指定したテキストの該当箇所、授業資料等を参考に、予習・復習を習慣づけていくこと。 毎回の事前学習・復習は必要です。（2時間）					

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：荒木勤著「最新産科学 正常編」 文光堂 助産学講座2 基礎助産学〔2〕母子の基礎科学 医学書院 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 医学書院 参考書： 病気がみえる9 婦人科・乳腺外科 メディックメディア 病気がみえる10 産科 メディックメディア
成績評価の方法・基準
筆記試験 100%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績状況により必要に応じ、クラス全体に対し補足説明を行う。
担当教員からのメッセージ
授業の進行は、学習進度に伴い変更があります。 助産学の基礎知識であり、実践するにあたり、身につけておかなくてはならない科目です。

【基礎領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
生命科学と倫理	903	前期	必修	1単位 15時間	講義
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）、盛岡正博（MORIOKA, Masahiro）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
授業終了後に教室で質問を受け付ける。 執務室（5号館1階理事長室）の扉が開いている際は、随時相談を受け付ける。					
授業の概要					
生命科学と倫理の概念や歴史、様々な医療の場における生命倫理とそれぞれの課題、助産における生命倫理のジレンマと課題について理解し、助産における生命倫理の特性と支援、責務について学修する。 生命の尊厳と人間尊重の精神を理解する。生命に関する倫理原則を具体的な例を検討しながら、ともに学ぶ。文化や社会環境による多様な価値観の違いや考え方の相違を受け止めながら、医療に携わる専門職としての行動基盤を築く機会とする。					
到達目標					
1. 思索すること、悩むことの大切さを修得する。 2. 他者の表現することの理解に努め、共感し寄り添うことの意味を知る。 3. 専門職として学ぶ自覚と他者との関係性の大切さを理解する。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
助産師は2つの命を預かることから時代を超えた倫理観を養う必要がある。よって、他科目の全てにおいて関連する。					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1	はじめに～生命倫理学の歴史的背景	講義	盛岡		
2	生命誕生と医学の介入①～人工授精、体外受精など	〃	〃		
3	生命誕生と医学の介入②～再生医療、iPS細胞の可能性と課題	〃	〃		
4	生を絶つことへの医学の介入①～人工妊娠中絶、女性の自己決定権	〃	〃		
5	生を絶つことへの医学の介入②～選別出産、減数手術など	〃	〃		
6	インフォームド・コンセント～医師の裁量権とパターナリズム まとめ～生命が平等足りうる社会か…	〃	〃		
7	人工妊娠中絶・生殖医療・出生前診断の医学的基礎知識	〃	湯本		
8	出生前診断：遺伝カウンセラーの役割と活動	〃	招聘講師		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
テーマに従って、講義資料を用意するので、事前にテキストを読むか、受講後に復習すること。 講義時に見聞するニュースなどを資料として用いることもあるので、社会的話題にも関心をもつこと。					
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等					
テキスト：生命倫理への招待（南山堂） 参考書や参考論文は、講義進行に合わせて提示します。					

成績評価の方法・基準
・講義終了後に「リアクション・ペーパー」の記述内容を評価する。 ・課題を提起して「生命倫理」的考察のレポート作成による評価を行う。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・提出されたレポートや、リアクション・ペーパーは前期終了後に本人に返還する。
担当教員からのメッセージ
・覚える学問でなく、思索を楽しんでください。 ・自分探しの時間にしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
・出生前診断については、臨床場面で活動している助産師（遺伝カウンセラー）を招聘する予定である。

【基礎領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
ウイメンズヘルス	904	前期	必修	2単位 30時間	講義
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○田中由美子（TANAKA, Yumiko）、櫻井綾香（SAKURAI, Ayaka）、俵瑞枝（TAWARA, Mizue）、大久保早苗（OOKUBO, Ssnae）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
原則授業日の午後（～17:00） それ以外は別途メールにて相談 y-tanaka@saku.ac.jp					
授業の概要					
ウイメンズヘルスの概念や支援技術の基本、ウイメンズヘルスの特性、女性のライフサイクル各期におけるウイメンズヘルスの課題と助産師の役割について理解し、助産機能の柱をなすウイメンズヘルスクエアを実践できる基礎能力を養う。					
到達目標					
1. ウイメンズヘルスの概念を述べることができる。 2. 女性の健康と関連要因について説明できる。 3. 女性のライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と健康課題を説明できる。 4. 性科学の概念を理解し、性の健康について説明できる。 5. リプロダクティブヘルス/ライツにおける家族計画の意義を述べることができる。 6. 各種受胎調節の理論と具体的な方法を説明できる。 7. 母子の栄養および女性の栄養について理解し、説明できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
・生殖の基礎科学をベースとしている。卵巣機能と間脳・下垂体機能の理解は不可欠である。 ・健康教育論、不妊症と不妊ケア、妊娠期および、産褥期の診断とケアにおける援助技術を考える基礎的な知識となる。					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1	オリエンテーション、ウイメンズヘルスの概念、支援技術の基本	講義	田中		
2	ライフサイクルにおける健康課題（思春期、成熟期①）	講義	田中		
3	ライフサイクルにおける健康課題（成熟期②、更年期、老年期）	講義	田中		
4	社会の中の女性の健康問題（DV、労働、災害）	講義	櫻井		
5	性感染症・性科学・性の多様性	講義	櫻井		
6	家族計画の意義と法律・各種受胎調節の理論と方法	講義	田中		
7	対象に合わせた受胎調節指導	講義	田中		
8	対象に合わせた受胎調節指導	講義	田中		
9	受胎調節指導の演習	演習	田中		
10	アロマセラピー	講義	俵		
11	アロマセラピー	演習	俵		
12	母子の栄養	講義	大久保		
13	母子の栄養	講義	大久保		
14	女性の栄養	講義	大久保		
15	女性の栄養	講義	大久保		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
授業範囲のテキストを読み、専門用語や法律などの基礎知識を確認して臨んでください。（45分） 学習課題を出します。課題は授業内で指示します。 授業終了後には知識の整理を行い、自分の考えを深めてください。（45分）	
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等	
テキスト：助産学講座5 助産診断技術学Ⅰ 医学書院 助産師基礎教育テキスト第2巻ウイメンズヘルスケア 日本看護協会出版会 助産学講座3 母子の健康科学 医学書院 参考書： 家族計画指導の実際 第2版増補版 医学書院（2017） 受胎調節指導用テキスト 日本家族計画協会（2016）	
成績評価の方法・基準	
筆記試験	40%
GWレポート	20%
課題レポート	20%
演習の取り組み	20%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
課題・GWのレポートは内容確認後に返却する。 筆記試験は返却しない。	
担当教員からのメッセージ	
周産期に携わることだけが助産師の役割ではありません。女性の一生涯を通じた健康を支援し、その人がより良く生きていけるよう支援することも助産師の大切な役割です。 受胎調節指導の知識や技術は女性の健康とwell-beingを支援する助産師には必要不可欠なスキルです。女性に関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢で臨んでほしいと思います。	

【基礎領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
家族の心理・社会学	905	前期	必修	1単位 15時間	講義
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、尾島万里（Ozima, Mari）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
・授業終了後、教室で質問を受ける。 ・随時、メール（y-takeuchi●saku.ac.jp）で質問を受ける。					
授業の概要					
母性の基礎になる女性の心理的特性、マタニティサイクルにおける母性・父性の心理的発達や、親、子、その他の家族の心理社会的の特性を理解し、家族に対する心理社会的支援ができる基礎的能力を養う。					
到達目標					
1. 現代の家族の機能・役割・発達課題と法律について述べる事が出来る。 2. 様々なライフステージにおける女性・母親の心理的発達と特徴を説明できる。 3. 周産期及び子育て期における病理に陥る心理的要因が解り、支援を考察出来る。 4. 母親・父親・子育ての現代社会における特徴と課題について説明できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
・「助産学概論」の対象論を基礎として、その中の女性をより深く学ぶものである。 ・「妊娠期の診断とケア」「分娩期の診断とケア」「産褥期の診断とケア」「周産期ハイリスクケア論」における助産診断とケアを行う際の根拠を提供する科目である。					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1	ライフステージ（思春期・青年期、成人初期・中期、更年期・老年期）における女性の心理的発達と社会的課題	講義／GW	竹内		
2	家族と社会（家族とは、家族の変化、家族形成・法律、機能）	講義	竹内		
3	家族関係（発達段階、夫婦関係・力動性、役割）	講義	尾島		
4	現代家族と母性・父性、子育て	講義	尾島		
5	母子関係の形成と課題1（母性と社会通念、母子関係の形成）	講義	竹内		
6	母子関係の形成と課題2（周産期の女性の心理、発達課題、ストレス）	講義	外部講師		
7	父子関係の形成と課題（父親と父性意識、発達課題）	講義／GW	竹内		
8	まとめ	講義／GW	竹内		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
・授業内容にあたる教科書の項目を読んで、資料にまとめる。（授業の初めにキーワードの説明をグループ員に行う。講義終了時に再度理解度を確認する） 約45分 ・文献を精読し疑問点を整理しディスカッションに臨めるよう紙面に準備する。 約60分					

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等	
テキスト ・助産学講座4 母子の心理・社会学 医学書院 参 考 書 ・母性論 ルバ・ルービン 医学書院 ・女性の心の成熟 玉谷直美 創元社 ・父親の誕生 マーチン・グリーンバーグ メディカ出版 その他文献は講義時に紹介する。	
成績評価の方法・基準	
・文献まとめレポート 30% ・プレゼンテーション 10% ・最終レポート 40% ・グループ討議への参加度 20%	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
・提出レポート：評価後コメントし、返却する。	
担当教員からのメッセージ	
女性の心のありようがライフサイクルとともに大きく変化する過程を把握でき、目の前の対象に寄り添える助産師になってください。同時に自己の心のありようも客観的に俯瞰できたらいいなと思います。	

2021 年度

シラバス〔実践領域〕

佐久大学別科助産専攻

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
妊娠期の診断とケア	911	前期	必修	1単位 30時間	演習
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○田中由美子（TANAKA, Yumiko）、湯本敦子（YUMOTO, Athuko）、竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、柴田香菜子（SHIBATA, kanako）、木村薫（KIMURA, Kaoru）、柳沢明子（YANAGISAWA, Akiko）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
授業終了後に教室で質問を受ける。 質問は随時受け付けるが、事前にメールで連絡をすること 田中 y-tanaka●saku. ac. jp					
授業の概要					
妊婦の健康状態及び妊娠経過に関わる助産診断、妊婦の援助技術、妊娠期の異常と異常経過における妊婦のケアについて理解し、妊婦に対して適切な助産診断と援助を実施できる基礎的能力を養う。					
到達目標					
1. 妊娠期の助産過程の展開ができる。 1) 妊娠期の助産過程に必要な基礎的知識を理解し説明できる。 2) 妊娠期の助産過程に必要な情報項目について理解し説明できる。 3) 妊娠期の助産診断に必要な情報を収集するための助産技術について理解し説明できる。 4) 妊娠期の助産過程において、正常経過とその逸脱について、分析・解釈・統合し診断を考察することができる。 5) 妊娠期の助産過程において、診断に基づき、計画・立案することができる。 6) 妊娠期の助産過程を評価できる。 2. 妊娠各期に必要な助産技術を、根拠に基づき事例を用いて実施できる。 3. 妊娠期の保健指導が実施できる。 4. 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠の医学的管理について理解し説明できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
基礎領域全科目、分娩期の診断とケア、産褥期の診断とケア、医療診断と医療処置、乳幼児ケア論、周産期ハイリスクケア論、親子関係発達とケア、地域母子保健論、助産管理、不妊症と不妊ケア					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1	オリエンテーション、妊娠期の助産診断の概要	講義	田中		
2	妊娠の生理と妊娠期の心理的・社会的変化	講義	田中		
3	妊娠期の助産診断の特徴と妊婦への支援	講義	田中		
4	事例を用いた助産過程の展開①	講義	田中		
5	事例を用いた助産過程の展開②	GW	田中		
6	事例を用いた助産過程の展開③	講義	田中		
7	事例を用いた助産過程の展開④	GW	田中		
8	妊娠期の保健指導①	講義	田中		
9	妊娠期の保健指導②	演習	田中		
10	妊娠期の保健指導③	演習	田中		
11	妊娠期のフィジカルアセスメントと妊婦への支援	演習	柳沢		
12	妊娠期のフィジカルアセスメントと妊婦への支援	演習	柳沢		
13	妊娠期の助産技術の演習①	演習	田中・湯本・竹内・柴田		
14	妊娠期の助産技術の演習②	演習	田中・湯本・竹内・柴田		
15	妊娠期の異常・ハイリスク妊娠の医学的管理	講義	木村		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
授業開始までに基礎看護学、母性看護学で学んだ内容（知識・技術）を十分に復習する。約60分以上 毎回の授業内容にあたる教科書を読み、専門的な用語や正常値などを理解して講義に臨む。約45分 グループワークでのディスカッションに臨めるように、自己の考えを紙面等にまとめる。終了後には加筆・修正を行い考えを深める。約60分	
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等	
テキスト： 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期. 医学書院 最新産科学 正常編 改訂第 22 版. 文光堂 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程. 南江堂 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020. 日本産婦人科学会 助産師のためのフィジカルイグザミネーション. 医学書院 参考文献： 助産師基礎教育テキスト第 4 巻 妊娠期の診断とケア. 日本看護協会出版会 写真でわかる助産技術. インターメディカ 母性看護学Ⅱ周産期各論. 医歯薬出版 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第2版. 医歯薬出版 母性看護実習プレブック、看護過程の思考プロセス 医歯薬出版 病気がみえる Vol. 10 産科. 医学情報科学研究所	
成績評価の方法・基準	
助産過程の展開の記録内容	30%
グループワークへの参加度	20%
定期筆記試験	50%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
助産過程の記録はコメントした後、返却する。 定期筆記試験の試験問題は返却しない。	
担当教員からのメッセージ	
・ 助産過程は、看護過程、基礎看護技術を土台としています。助産師の基礎教育は、看護師教育の積み重ねになりますので、母性看護学をはじめ、基礎看護学や解剖生理などは、必ず復習して臨んでください。 ・ 妊娠期の生理的な変化や心理・社会的変化はその後の分娩期や産褥期にも関連していきます。妊娠期の授業ですが、その後の分娩期や産褥期と繋がっていくということを意識して学んでください。	

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
分娩期の診断とケア	912	前期	必修	3単位 90時間	演習
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○湯本敦子（YUMOTO, Atuko）、田中由美子（TANAKA, Yumiko）、竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、 柴田香菜子（SHIBATA, Kanako）、 田村正徳（TAMURA, Masanori）、中田覚子（NAKATA, Satoko）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
授業後に質問を受ける。その他適宜調整する。事前に連絡をください。a-yumoto●saku.ac.jp					
授業の概要					
分娩期における産婦と胎児の健康状態および分娩経過に関わる助産診断、産婦と胎児への援助技術を理解し、産婦と胎児に対して適切な助産診断と分娩介助を含む助産技術を実践できる基礎的能力を養う。					
到達目標					
1. 分娩経過および分娩経過分娩の4要素（産道、娩出物、娩出力、産婦の精神状態）と4要素への関連因子から、分娩機転を説明できる。 2. 分娩期における診断技術と留意点について説明できる。 3. 分娩期においてどのような助産ケアが必要か、可能か、そのケアのポイントが説明できる。 4. 模擬事例に対して、分娩期の診断に必要な情報収集、情報の解釈・分析・統合・診断、計画立案ができる。 1) 分娩期の診断に必要な情報を問診、外診、内診を用いて収集できる。 2) 収集した情報を分析・解釈できる。 3) 上記1)-2)を統合し、以下（1）-(4)について助産診断できる。 (1) 分娩開始の診断 (2) 現在の分娩時期の診断 (3) 現在の分娩経過の診断 (4) 今後の分娩の経過予測 4) 上記1)-3)を根拠として、助産計画を立案できる。 5. 到達目標2を基盤としたシナリオシミュレーションの実践を通じて、助産過程を評価できる。 1) 助産計画の一部を実行できる。 2) 産婦・胎児・家族の反応から、助産実践を評価できる。 3) 助産過程を評価できる。 6. 分娩介助に必要な環境整備(分娩介助の準備)を実行できる。 1) 産婦の安全・安楽な環境整備 2) 清潔操作による分娩資器材の準備 3) 清潔操作による分娩野作成 4) 分娩介助に向けた効率的な資器材の配置 7. 模型にて、仰臥位分娩介助を手順通りに実行できる。 8. 模型にて、出生直後の新生児の観察、診断とケアを説明できる。 9. 新生児蘇生法（NCPR）Aコースを受講し、蘇生を必要とする児に対する適切な対応を説明し、模型にて実行できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
母性看護学援助論の知識があることが前提となる。また、母性看護学以外の知識として、特に形態機能学、成人看護学の知識が必要となる。 前提となる科目：助産学概論、生殖の基礎科学、家族の心理・社会学、妊娠期の診断とケア 並行して学習する科目：医療診断と医療処置、新生児期の診断とケア、乳幼児ケア論、周産期ハイリスクケア論 後に続く科目：産褥期の診断とケア、助産学実習Ⅱ・Ⅲ					
授業計画					
回数	授業内容			授業方法	担当教員
1-2	オリエンテーション			講義	湯本
	分娩期の診断とケア 1	分娩の概念、分娩の4要素、分娩経過		講義	湯本
3-4	分娩期の診断とケア 2	産道・娩出力の判断、胎児の健康状態の判断		講義・演習	湯本
5-6	分娩期の診断とケア 3	問診・内診技術、胎児付属物の診断		講義・演習	湯本
7-8	演習：助産ケア技術	産痛緩和・呼吸法・分娩を妨げない/分娩を進めるケア 母子および家族へのケア		演習	湯本・田中 竹内・柴田
9-10	演習：基礎看護技術	清潔操作・ガウンテクニック・導尿		演習	〃
11	反転授業：分娩機序（胎児産道通過機転・胎盤娩出機転）			演習	湯本

12-13	分娩介助手順 1 分娩介助のための環境整備(分娩介助準備)	演習	湯本・田中・
14-15	分娩介助手順 2 仰臥位分娩介助	演習	竹内・柴田
16	筆記試験		
17-18	分娩期の診断とケア 4 助産過程の展開・時期診断・経過診断	講義	湯本
19-20	助産過程の展開 1 初産婦：入院時(受け持ち開始時)	演習	湯本 田中 竹内 柴田
21-22	シナリオシミュレーション 1 初産婦：入院時(受け持ち開始時)		
23-24	助産過程の展開 2 初産婦：分娩第1期前半		
25-26	シナリオシミュレーション 2 初産婦：分娩第1期前半		
27-28	助産過程の展開 3 初産婦：分娩室入室・分娩の準備		
29-30	シナリオシミュレーション 3 初産婦：分娩第1入室・		
31-32	助産過程の展開 4 初産婦：分娩第2期 外消判断		
33-34	シナリオシミュレーション 4 初産婦：分娩第2期		
35-36	助産過程の展開 5 経産婦：分娩第1期後半～分娩第2期		
37	新生児蘇生法N C P R Aコース	演習	田村・中田
-40			竹内
41	分娩誘発・帝王切開術・緊急時の備え	講義	湯本
42	麻酔分娩	講義	特別講師
43	分娩技術試験 1 分娩セットの展開・手洗い・外陰部消毒・清潔野作成		
44	分娩技術試験 2 分娩介助術		
45	OSCE (実習前)		

授業時間外学修(準備学習を含む)の具体的な内容及びそれに必要な時間

全体を通じて、必ず予習・復習、自己練習の時間確保が必要であり、そのため自分の学習進度に応じて自己学習計画が必要となる。自分で(他の科目の課題等を含め)学習計画を立て、着実に進めていくこと。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト：町浦美智子、助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア、日本看護協会出版会
町浦美智子、助産学実習ブレイク 助産過程の思考プロセス、医歯薬出版
我部山キヨ子他、助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版、医学書院
中井章人、図説CTGテキスト、メジカルビュー社
「日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生テキスト第4版」メジカルビュー社
参考書：我部山キヨ子、助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期、医学書院
横尾京子、助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期、医学書院
北川真理子、今日の助産マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第3版、南江堂
産婦人科診療ガイドライン産科編2020 日本産婦人科学会
平澤美恵子、写真でわかる助産技術アドバンス DVD BOOK、インターメディカ

成績評価の方法・基準

- ① 反転授業(レポート提出およびプレゼンテーション)
 - ② 筆記試験
 - ③ 助産過程の展開(課題提出)
 - ④ 分娩技術試験1・分娩技術試験2
 - ⑤ OSCE
- ※上記①②③④の各成績評価において合格基準に達することが必要である。それぞれの評価基準は別に示す。
 ※①②③④においてすべて合格したのち、OSCEを受けることができる。
 ※①②③④⑤すべて合格をもって、単位修得が認定される。
 ※助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修するためには、本科目を含む前期必修科目すべての単位修得が必須条件である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して、教員から添削コメントを添える。
試験に対するフィードバックとして、クラス全体および個別にコメントを伝える。成績により追加課題を課すことがある。

担当教員からのメッセージ

助産師独自の仕事として最も核となる分娩期におけるケアの実践科目です。授業時間以外でも自主的に計画的に学習、練習の時間を確保し、着実に学習課題をクリアしていくことが必要です。
助産実践において、安全に、快適に、満足のいく意味のある出産へのサポート役として存分に力が発揮できるよう、学生同士でも協力し、切磋琢磨しつつ、積極的に学んでください。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
産褥期の診断とケア	913	前期	必修	1単位 30時間	演習
担当教員（○印＝科目責任教員） ○竹内良美 (TAKEUCHI, Yoshimi)、湯本敦子 (YUMOTO, Atuko)、田中由美子 (TANAKA, Yumiko)、柴田香菜子 (SHIBATA, Kanako)、黒澤かおり (KUROSAWA, Kaori)					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 授業終了後教室で質問を受ける。 メールで質問を受ける y-takeuchi●saku.ac.jp					
授業の概要 褥婦の健康状態及び産褥経過に関わる助産診断、褥婦の援助技術を理解し、褥婦に対して適切な助産診断と助産技術を実践できる基礎的能力を養う。乳房管理および母乳育児支援を含む。					
到達目標 1. 産褥期の助産過程の展開ができる。 1) 産褥期の助産過程に必要な基礎的知識を理解し説明できる。 2) 産褥期の助産過程に必要な情報項目について説明できる。 3) 産褥期の助産診断に必要な情報を収集するための助産技術について理解し説明できる。 4) 産褥期の助産過程において、正常経過とその逸脱について、分析・解釈・統合し診断を考察することができる。 5) 産褥期の助産過程において、診断に基づき、計画・立案することができる。 6) 産褥期の助産過程を評価できる。 2. 産褥期に必要な助産技術を、根拠に基づき事例を用いて実施できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連 基礎領域全科目、妊娠期の診断とケア、分娩期の診断とケア、医療診断と医療処置、乳幼児ケア論、周産期ハイリスクケア論、親子関係発達とケア、地域母子保健論、助産管理、不妊症と不妊ケア					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1	オリエンテーション、産褥期の助産過程の特徴	講義	竹内・柴田		
2	産褥期の生理（身体面・心理面）と褥婦の支援： 課題学習	講義	竹内・柴田		
3	産褥期の生理と褥婦の支援：反転授業	講義	竹内・柴田		
4	産褥期の異常と褥婦の支援	講義	竹内・柴田		
5	産褥期の心理・社会的課題	講義	竹内・柴田		
6	事例を用いた産褥期の助産過程の展開	講義	竹内・柴田		
7	事例を用いた産褥期の助産過程の展開	講義	竹内・柴田		
8	事例を用いた産褥期の助産過程の展開	講義、	竹内・柴田		
9	産褥期の健康教育の企画	GW	竹内・柴田		
10	産褥期の健康教育の企画	GW	竹内・柴田		
11	産褥期の健康教育のプレゼンテーション	演習	竹内・柴田		
12	産褥期の健康教育のプレゼンテーション	演習	竹内・柴田		
13	産褥期の助産技術の演習	演習	竹内・湯本・田中・柴田		
14	母乳育児支援	講義	黒澤		
15	母乳育児支援	講義	黒澤		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 授業開始までに基礎看護学、母性看護学で学んだ内容（知識・技術）を十分に復習する。約60分以上 毎回の授業内容にあたる教科書を読み、専門的な用語や正常値などを理解して講義に臨む。約45分（適宜、授業始めに小テストを実施する） グループワークでのディスカッションに臨めるように、紙面に考えをまとめる。終了後には加筆・修正を行い考えを深める。約60分					

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 テキスト： 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期. 医学書院 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程. 南江堂 最新産科学 正常編 改訂第 22 版. 文光堂 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020. 日本産科婦人科学会 助産師のためのフィジカルイグザミネーション. 医学書院 参考文献： 助産師基礎教育テキスト第 6 巻産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア. 日本看護協会出版会 写真でわかる助産技術. インターメディカ 写真でわかる母性看護技術. インターメディカ 母性看護学Ⅱ周産期各論. 医歯薬出版 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第2版. 医歯薬出版 母性看護実習プレブック、看護過程の思考プロセス 医歯薬出版
成績評価の方法・基準 助産過程の展開に関する記録内容や健康教育のグループワークへの参加度 20% 定期筆記試験 80%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 小テストはその場で答え合わせをし、解説を行う。いったん回収してから返却する。 助産過程の記録はコメントし後日返却する。 定期筆記試験の試験問題は返却しない。
担当教員からのメッセージ ・助産過程の基本には、看護過程、基礎看護技術があります。助産師基礎教育は、看護師基礎教育の積み上げになるので、既習のものは、必ず復習して臨んでください。 ・褥婦の生理的な変化・正常な経過を理解することを土台とし、正常からの逸脱や産褥期の異常への理解につなげていきます。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
新生児期の診断とケア	921	前期	必修	1単位 15時間	演習
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○田村正徳（TAMURA, Masanori）、湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
田村：授業終了時に質問を受け付ける 湯本：田村先生不在時、適宜調整します。 a-yumoto●saku.ac.jp					
授業の概要					
新生児の健康状態及び胎外生活への適応過程に関わる助産診断、新生児の援助技術、新生児の異常と異常経過における診断・管理について理解し、新生児に対して適切な助産診断と助産技術を実践できる基礎的能力を養う。					
到達目標					
1. 新生児の子宮外生活適応過程を説明できる。 2. 新生児によくみられる症状とその対応、異常と管理について説明できる。 3. 低出生体重児、早産児の特徴とケアのポイントを説明できる。 4. 新生児の観察フィジカルアセスメントについて説明できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
新生児の生理的な理解については、「生殖の基礎科学」「妊娠期の診断とケア」「分娩期の診断とケア」「乳幼児ケア論」「周産期ハイリスクケア論」と関連します。 また、助産学実習Ⅱ・Ⅲに関連する基本的知識・技術となります。					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1-2	新生児の診断と管理 1 正常成熟新生児の子宮外生活適応過程	講義	田村		
3-4	新生児の診断と管理 2 新生児期に見られる異常とその対応・管理	講義	田村		
5-6	新生児の診断と管理 3 低出生体重児・早産児の特徴と管理	講義	田村		
7-8	新生児の診断と管理 4 新生児のフィジカルアセスメント	講義	田村		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
テキスト及び授業資料をよく読み、自分の学習ノートを作成し、予習・復習してください。学習ノートは国家試験勉強にも役に立ちます。					

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：仁志田博司. 新生児学入門 第5版. 医学書院 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 医学書院 参考書：日本新生児成育医学会編. 新生児学テキスト. メディカ出版 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会
成績評価の方法・基準
筆記試験 100%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
試験は成績発表後、返却する。
担当教員からのメッセージ
新生児を一人の人間として、助産の対象として尊重し大切に思い、助産師として必要な知識・技術を学びを学んでケアしていきましょう。 また、出生前、出生時から、新生児以降の乳幼児期へと継続した視点を持つこと、他の職種との共同管理のもとでのケアの実践分野であることも忘れないようにしましょう。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
医療診断と医療処置	914	前期	必修	1単位 15時間	講義
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○小口 治（OGUCHI, Osamu）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
授業終了後に教室で質問を受け付ける。					
授業の概要					
妊婦健診に必要な超音波診断の基礎的技術に基づいて理解し、助産師が依頼や院内助産等で活用する基礎的能力を養う。また、医師がいない場での応急処置としての会陰切開と局所麻酔、会陰縫合、緊急時の止血などができる基礎的技術を養う。					
到達目標					
1. 周産期における医療機器を用いた診断方法の目的、意義、方法を説明できる。 2. 分娩期の異常の病態整理、病態生理に基づく医学的管理を説明できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
関連科目：生殖の基礎科学、妊娠期の診断とケア、分娩期の診断とケア、産褥期の診断とケア、 周産期ハイリスクケア論、助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1	1. 分娩期における異常の医学的管理（1）分娩時母体損傷 1) 頸管裂傷・膣・会陰裂傷 2) 会陰裂傷・会陰切開と縫合技術及び裂傷に伴う止血技術	講義	小口		
2	2. 分娩期における異常の医学的管理（2）産道の異常 1) 骨産道の異常（狭骨盤、広骨盤） 2) 軟産道の異常（軟産道強靱）	講義	小口		
3	3. 分娩期における異常の医学的管理（3）娩出力の異常 1) 微弱陣痛・過強陣痛 2) 子宮収縮薬の投与と管理	講義	小口		
4 ・ 5	4. 分娩期における異常の医学的管理（4）胎児および胎児付属物の異常 1) CPD（巨大児含む） 2) 進入異常 3) 回旋異常 4) 胎児機能不全（CTG、急墜分娩含む） 5) 臍帯の異常 6) 胎盤の異常 7) 羊水の異常（非適時破水含む）	講義	小口		
6-7	5. 周産期における医療機器を用いた診断 1) 超音波診断・技術(超音波技術演習含む) 2) X線骨盤計測法（GMの見方） 3) CTG判読方法	講義・演習	小口		
8	6. 産科手術 1) 吸引分娩術 2) 鉗子分娩術 3) 帝王切開術	講義	小口		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
1. 予習：テキストの講義該当部分を事前に熟読の上、講義に参加すること。 2. 復習：講義内資料において、不明な点等については、必ずテキスト・参考書を振り返ること。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：荒木 勤『最新産科学 異常編 改訂第22版』文光堂 参考書：中井章人『図説CTGテキスト』メジカルビュー社 梁 栄治『助産師と研修医のための超音波検査 改訂第2版』診断と治療社 町浦美智子『助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア』日本看護協会出版会
成績評価の方法・基準
定期試験における筆記試験を成績評価対象とし、60%以上を単位取得として認める。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
初回授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
助産師国家試験においても、周産期における異常時の対応に関する設問が増加傾向です。常に臨床現場をイメージし、臨床で使える知識を着実に養っていきましょう。協働する医師から講義を受けることで、他職種が求める助産師像についても考察する機会としましょう。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
乳幼児ケア論	915	前期	必修	1単位 15時間	講義
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、橋本佳美（HASHIMOTO, Yoshimi）、湯本敦子（YUMOTO, Atuko） 田中由美子（TANAKA, Yumiko）、柴田香菜子（SHIBATA, Kanako）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
橋本：原則授業日の午後（12:10-12:50, 13:00-14:30）橋本研究室5号館3階308。 その他の日は別途メールで相談。y-hashimoto●saku.ac.jp 竹内：適宜調整します。事前に連絡をください。Y-takeuchi●saku.ac.jp					
授業の概要					
新生児の子宮外生活適応過程と必要なケアを学び新生児期の助産過程を展開する。 乳幼児の発育発達とその評価および乳幼児の健康診査の方法を理解し、乳幼児の成長・発達と評価、異常への逸脱の判断と援助技術を実践できる基礎的能力を養う。					
到達目標					
1．新生児の子宮外生活適応過程を説明できる。 2．新生児期の観察と必要なケアについて説明できる。 2．新生児によくみられる異常とその対応・管理について説明できる。 3．低出生体重児・早産児の特徴とケアのポイントを挙げることができる。 4．乳児健診、1歳半、3歳児健診のポイントを挙げることができる。 5．乳幼児の養護と母親の持つ不安について説明できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
新生児の生理的な理解については、生殖の基礎科学、妊娠期の診断とケア、分娩期の診断とケア、新生児期の診断とケア、周産期ハイリスクケア論と関連します。 乳幼児と家族のケアについては、家族の心理・社会学、親子関係発達とケアがこの科目に関連しています。					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1	乳児前期の発達と健康診査 乳幼児の成長・発達の評価方法と視点	講義	橋本		
2	乳児期前期の発達の観察ポイントと母親の不安への対処 乳児後期の発達と健康診査 子どもの興味を外に引き出す援助	講義	橋本		
3	幼児期の発達と健康診査 1歳半、3歳児検診の観察ポイントと養育者への支援	講義	橋本		
4	乳幼児期まとめ	講義	橋本		
5-6	新生児期の助産過程の展開	講義	竹内・柴田		
7-8	新生児のフィジカルイグザミネーション	演習	湯本・田中 竹内・柴田		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<u>予習</u> 1. 授業開始時に授業の進め方を説明し、授業計画の詳細を提示しますので、授業に必要な部分はテキストを読んで出席してください。予習はおよそ30分程度の時間を要します。 2. 予習のためのワークシートを渡しますので、テキスト等を参考にして学修を進めてください。 <u>復習</u> 1. 各授業時に提示される目標を手掛かりに、授業のレジメ、資料を基に復習し、ノートに必要なことを整理してください。授業後その日のうちに復習する習慣をつけましょう。 2. 授業後に国家試験問題と課題をワークシートとして渡します。復習のための問題を解き、わからないところは調べましょう。復習には30分から1時間くらいの時間を要します。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：仁志田博司編. 新生児学入門第5版. 医学書院 助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期. 医学書院 我部山キヨ子. 大石時子編. 助産師のためのフィジカルイグザミネーション第2版. 医学書院 参考文献：細野茂春監修. 新生児蘇生法ガイドライン第4版. メジカルビュー社 その他は講義時に提示する
成績評価の方法・基準
筆記試験 80%（橋本担当分50%竹内担当分30%） 助産過程の展開レポート 20%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
筆記試験は返却しない。 助産過程の展開レポートは提出後返却する。
担当教員からのメッセージ
乳幼児のケアという方向から母子・家族の看護、助産師の役割について考えてみましょう。 新生児から乳幼児までの国家試験の問題を解き、国家試験準備をしていきましょう。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
周産期ハイリスクケア論	916	前期	必修	1単位 15時間	講義
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）、中田覚子（NAKATA, Satoko） 小口 治（OGUCHI, Osamu）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
授業終了後、教室で質問を受ける。 研究室在室時に調整する。湯本（5号館3階301）・中田（5号館2階208） 希望がある場合は事前に連絡をください。a-yumoto●saku.ac.jp					
授業の概要					
ハイリスク状態にある妊婦・産婦・褥婦と管理および援助技術について理解し、ハイリスク状態にある妊産褥婦の健康状態のアセスメントと助産ケアを実践できる基礎的能力を養う。					
到達目標					
1．周産期医療の現状と助産師の業務範囲を理解し、助産師がハイリスクケアを学ぶ意義が説明できる。 2．周産期各期のハイリスク状態に関する知識を養い、以下の能力が習得できる。 1）正常とリスクの境界領域にある状態の観察とアセスメントができる。 2）ハイリスク妊産婦へのケアについて述べることができる。 3）医師への照会や搬送のための判断と対応について説明できる。 4）周産期各期の急変時の対応が説明できる。 5）産科における危機的出血と出血時の対応について説明できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
本科目と並行して関連する科目 生殖の基礎科学、家族の心理・社会学、妊娠期の診断とケア、分娩期の診断とケア、産褥期の診断とケア、新生児期の診断とケア、医療診断と医療処置、助産管理 本科目から後に続く科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、助産学研究					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1	分娩期における異常の医学的管理（5）危機的産科出血 弛緩出血、常位胎盤早期剥離、子宮破裂、羊水塞栓	講義	小口		
2	ハイリスク妊娠とは 周産期における異常と助産ケア1 母子感染症	講義	中田		
3	周産期における異常と助産ケア2 妊娠悪阻、流産・切迫流早産・早産	講義	中田		
4	周産期における異常と助産ケア3 HD P、GDM／DM	講義	中田		
5	周産期における異常と助産ケア4 多胎、Rh－	講義	中田		
6	周産期における緊急時の対応	講義	湯本		
7-8	緊急時(産科出血)の対応	演習	湯本・中田		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
周産期各期の正常な経過について復習し、理解しておくこと。 毎回の授業範囲のテキストを読んで授業に臨むこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、日本看護協会出版会 参考文献：今日の助産、南江堂 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 医学書院 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 医学書院 病気がみえる Vol. 10 産科 メディックメディア
成績評価の方法・基準
筆記試験（100%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題を提示した時に説明する。
担当教員からのメッセージ
近年の周産期医療の動向やハイリスク妊産婦の増加から、助産師には、正常と異常に対応できるための高い助産実践能力を持ち、正常な経過であれば自律的にケアを実践し、正常からの逸脱時には医師をはじめとする関連職種と協働することが求められています。そのためには、正常と異常の判断能力、リスク診断、急変時の対応能力を身につける必要があります。正常な経過だけでなくハイリスクや異常な経過についての知識も習得しましょう。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
健康教育方法論	944	前期	必修	1単位 30時間	演習
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○田中由美子（TANAKA, Yumiko）、湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）、竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi） 柴田香菜子（SHIBATA, Kanako）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
質問、相談には随時対応するが、事前にメール等で連絡をすること。 田中：y-tanaka●saku.ac.jp					
授業の概要					
健康教育に必要な教育・学習理論や学習心理について理解し、個人指導や集団指導など対象の違いを考慮した健康教育の計画を立案、実施、評価する過程を学修する。また、地域の要請に応じ、高校生を対象とした健康教育のクラスを計画立案・実施・評価の過程に沿って実践する。					
到達目標					
1. 健康教育の理論を活用して計画立案・実施・評価の展開ができる。 2. 高校生を対象とした健康教育の計画立案・実施・評価ができる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
生殖の基礎科学、ウィメンズヘルスの学習を基礎として、本科目の学習により助産の対象となる人々への健康教育の方法の基本を学ぶ。 後に続く科目：地域母子保健、助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1	オリエンテーション、健康教育概論	講義	田中		
2	助産師の健康教育の実際	演習	田中		
3	健康教育方法論、指導計画立案の留意点	講義	田中		
4	健康教育（出前講座）準備 ニーズアセスメント	演習	田中		
5	健康教育（出前講座）準備 設計（全体）	演習	田中		
6-10	〃				

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等	
助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院	
成績評価の方法・基準	
健康教育実践への取り組み	50%
健康教育計画書（全体）	30%
課題レポート	20%
テーマ：助産師が地域において思春期教育を行う意義は何か、あなたの考えを述べてください。800字	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
計画書はコメントをつけて返却する。 リハーサルにおいては口頭でフィードバックする。 課題レポートは成績評価終了後返却する。	
担当教員からのメッセージ	
実際に地域に出て健康教育を行います。必要なことが対象に伝わるクラスにするためにはどうしたらいいか、行動変容まで期待できる健康教育とはどのようなものなのか等、健康教育の基本的プロセスと方法を学ぶための体験学習です。助産師がこうした教育を行う意義は何かも含め、幅広い学びに繋がられることを期待します。	

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
地域母子保健論	919	通年	必修	1単位 15時間	講義
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○竹内良美(TAKEUCHI, Yoshimi)、尾島万里(OZIMA, Mari)					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
終了時、教室で質問を受ける					
授業の概要					
地域母子保健の目指すものとその仕組み、地域母子保健を推進する社会資源の活用、地域母子保健の展開について理解し、地域で暮らす母子の健康問題に適切に対処できる基礎的能力を養う。					
到達目標					
1. 地域母子保健活動の目的・意義を述べることができる。 2. 地域母子保健体系を述べることができる。 3. 母子保健指標の動向を説明できる。 4. 個人・家族・地域の育児力を高めるための地域母子保健の支援方法を説明できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
・ 母子保健政策を具体的に思考するための基本科目である。 ・ 助産学実習Ⅰ～Ⅳにおける対象への支援に活用するものである。					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1	地域母子保健の目的と意義、母子の健康に関わる因子	講義	竹内		
2	母子保健の動向と課題：統計（全国・佐久市）、行政の仕組み、体系	講義	竹内		
3	佐久市における母子保健施策	講義	特別講師		
4-5	佐久市における母子保健事業の実際（パパママ教室の見学）	見学演習	竹内		
6	地域母子保健活動の基盤（法律と関係機関との連携）	講義	尾島		
7	地域における助産師の災害支援活動の実際	講義	特別講師		
8	母子保健行政の体系：行政の仕組み、関連法律、制度、主な母子保健施策、少子化対策	講義	竹内		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
事前の学習課題を出します。（1時間） 見学や演習後に自分の考えをまとめ、今後の課題を考える。（1～2時間）					

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等	
テキスト：助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院 わが国の母子保健 令和3年版 母子衛生研究会 参考書： 国民衛生の動向 保健衛生ニュース	
成績評価の方法・基準	
筆記試験	50%
見学レポート	10%
課題学習レポート	40%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
筆記試験は返却しない レポートはコメントをつけて返却する	
担当教員からのメッセージ	
母子とその家族の生活の拠点は地域です。妊娠期から分娩期、産褥期と継続して考える視点を養い、地域とのかかわりに繋げていく力を養ってほしいと思います。	

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
助産管理	920	前期	必修	2単位 30時間	講義
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）、中嶋智子（NAKAJIMA, Tomoko）、清水久美子（SHIMIZU, Kumiko） 深町京子（HUKAMACHI, Kyoko）、廣間武彦（HIROMA, Takehiko）、山崎さとみ（YAMAZAKI, Satomi） 黒澤かおり（KUROSAWA, Kaori）、保谷ハルエ（HOYA, Harue）、片岡啓子（KATAOKA, Keiko）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
授業終了後に質問を受ける。					
授業の概要					
助産管理の基本概念、助産業務に関連する法規、周産期医療システムの運用と地域連携、病院・助産所などの助産の行われる場における管理、周産期の医療事故や災害発生と助産業務など助産師の危機管理について理解し、助産管理を実践できる基礎的能力を養う。					
到達目標					
1. 助産管理の基礎的概念について説明できる。 2. 助産サービスの評価および助産師の危機管理について説明できる。 3. 周産期医療システムの運用と地域連携について説明できる。 4. 助産の行われる場（病院・助産所）における助産管理について説明できる。 5. 母子保健における災害対策・災害支援について説明できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
助産学概論、助産学実習Ⅳ 助産師の役割を経験豊富な講師から学び、危機管理、業務管理、他職種連携などの視点から助産師の在り方を考える。					
授業計画					
回数	授業内容			授業方法	担当教員
1	助産管理の基本概念 助産サービスの評価、助産と医療経済			講義	清水
2	病院内の助産管理 医療安全とリスクマネジメント			講義	清水
3	産科病棟・産科外来における助産管理			講義	深町
4-5	周産期医療システムと連携（学外授業：長野県立こども病院）			講義	廣間 山崎
6-7	助産所における助産サービスと管理 1 公的助産所			講義	黒澤
8-9	助産所における助産サービスと管理 2 分娩を扱う開業助産所			講義	保谷
10	助産所における助産サービスと管理 3 分娩を扱わない開業助産所			講義	片岡
11-12	助産ケアに関連する法律と責任 助産ケアに関連するガイドライン			講義	湯本
13-14	母子保健における災害対策・支援			講義	中嶋
15	試験				

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
国家試験問題の頻出問題に関連する内容です。自分なりの学習方法でまとめ、よく復習し、覚えてください。 各回の予習・復習をしっかりとってください。 学外授業はレポート課題は授業開始後に提示する。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：助産学講座10 助産管理 医学書院 助産師業務要覧 第3版 基礎編 参考文献：助産師業務要覧 第3版 アドバンス編 日本看護協会出版会 助産師業務要覧 第3版 実践編 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト第3巻 周産期における医療の質と安全 その他適宜授業中に示す
成績評価の方法・基準
定期試験 筆記試験（湯本・清水・黒澤・保谷担当部分） 学外授業レポート：課題は授業開始後に提示する。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
試験、レポート成績から必要により面談する。
担当教員からのメッセージ
助産師の活躍の場の広がりを理解し、さまざまな場での助産師の活動とその役割や意義について学修してください。 また助産師の大先輩たちから、様々な助産師像を学んでください。

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
助産学実習Ⅰ（妊娠期）	931	後期	必修	1単位 45時間	実習
担当教員（○印＝科目責任教員）			オフィスアワー／連絡先と連絡方法		
○田中由美子（TANAKA, Yumiko）、湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）、 竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、柴田香菜子（SHIBATA, Kanako）			各施設の実習担当教員と密に連絡をとる		
授業の概要					
妊婦の健康診査と保健指導が実践できる能力、妊婦の健康診査結果、異常への逸脱徴候について助言を得て判断できる能力など、妊婦とその家族に対する助産診断および支援技術を習得する。					
到達目標					
1. 継続事例の妊娠期について助産過程を展開できる。 2. 妊娠期の健康診査を理解し、一部実施できる。 3. 妊娠期に行われている健康教育の内容とその方法を理解し、継続事例に対し保健指導ができる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
前提となる科目：前期開講科目すべて 並行して関連する科目：助産学実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 後に続く科目：助産学実習Ⅳ（助産所）、助産学研究					
※ <u>助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修するためには、前期開講科目のうち必修科目の単位をすべて習得することが必須条件である。</u>					
授業計画					
実習方法： 妊娠後半の妊婦1例を継続事例として受け持ち、妊娠期の助産過程の展開を行う。					
実習期間：2021年9月6日～11月19日					
実習施設：佐久市立国保浅間総合病院 JA長野厚生連佐久総合病院佐久医療センター JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院 花岡レディースクリニック					
※詳細は実習要項参照					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
・実習に向け、事前に前期科目の知識・技術の確認が必要になる。 ・【妊娠期・分娩期・産褥期の診断とケア】における、すべての講義内容・演習内容は確実に習得して実習に臨むこと。					
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			成績評価の方法・基準		
講義のテキスト・参考書に準じる			実習要項に記載する方法・基準による		
課題に対するフィードバックの方法					
記録類に関してはその都度、コメントを記入していく。 詳細は実習要項を参照。					
担当教員からのメッセージ					
・一人の対象を妊娠期から分娩・産褥期、産後1か月まで継続して受け持ちます。母子ともに安全で満足できるお産への支援ができるよう、前期から学修を積み重ねていくことを期待します。 ・自身の健康管理に留意し、医療チームの一員として、必要な報告・連絡・相談は適宜、臨床指導者や教員に行うなど、責任ある行動をとることができるように実習に臨んでください。					

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
助産学実習Ⅱ（助産・継続ケア）	932	後期	必修	8単位 360時間	実習
担当教員（○印＝科目責任教員） ○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）、田中由美子（YUMOTO, Atsuko）、 竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、柴田香菜子（SHIBATA, Kanako）			オフィスアワー／連絡先と連絡方法 各施設の実習担当教員と密に連絡をとる		
授業の概要					
産婦（胎児を含む）の健康診査と助産診断、産婦ケア及び分娩介助の技術を実践できる能力、異常への逸脱の判断および救急時の対処方法が指導助言のもとにできる能力など、産婦（胎児を含む）とその家族に対する助産診断および援助技術、分娩介助技術を習得する。					
到達目標					
1. 分娩期の助産過程を展開できる。（分娩介助10例） 2. 継続事例1例を通じて、産褥期・新生児期の助産過程を展開できる。 3. 母子保健医療チームにおける助産師の役割および多職種との連携・調整について考察できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
前提となる科目：前期開講科目全て					

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
助産学実習Ⅲ（ハイリスク母子のケア）	933	後期	必修	1単位 45時間	実習
担当教員（○印＝科目責任教員）		オフィスアワー／連絡先と連絡方法			
○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）、田中由美子（YUMOTO, Atsuko）、竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、柴田香菜子（SHIBATA, Kanako）		各施設の実習担当教員と密に連絡をとる			
授業の概要					
ハイリスク状態にある妊産褥婦とその新生児に対する健康状態をアセスメントし、アセスメントした結果に基づいて、ハイリスクの妊産褥婦とその新生児に望ましいケアを、指導・助言を受けながら実践できる基礎的能力を養う。					
到達目標					
1. ハイリスク状態にある妊婦あるいは産婦や褥婦とその新生児について、医学的、身体的、心理・社会的、精神的状態を把握し、適切に助産過程を展開できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
前提となる科目：前期開講科目すべて 並行して関連する科目：助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ 後に続く科目：助産学実習Ⅳ（助産所）、助産学研究					
＊ <u>助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修するためには、前期開講科目のうち必修科目の単位をすべて修得することが必須条件である。</u>					
授業計画					
実習方法： ハイリスク状態にある妊婦あるいは産婦や褥婦とその新生児を1例受け持ち、助産過程を展開する。					
実習期間：2021年9月6日～11月19日					
実習施設：佐久市立国保浅間総合病院 JA長野厚生連佐久総合病院佐久医療センター JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院 花岡レディースクリニック					
※詳細は実習要項参照					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
・実習に向け、事前に前期授業の知識・技術の確認が必要になる。 ・【周産期ハイリスクケア論】【妊娠期・分娩期・産褥期の診断とケア】における、すべての講義内容・演習内容は確実に習得して実習に臨むこと。					
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等		成績評価の方法・基準			
講義のテキスト・参考書に準じる		実習要項に記載する方法・基準による			
課題に対するフィードバックの方法					
記録類に関してはその都度、コメントを記入していく。 詳細は実習要項を参照。					
担当教員からのメッセージ					
・基礎的な知識を補強していくことは大きな強みになります。主体的な学習を積み上げていけるように、前期から意識して取り組んでください。 ・健康管理に留意し、医療チームの一員として、必要な報告・連絡・相談は適宜、臨床指導者や教員に行うなど、責任ある行動をとることができるよう実習に臨んでください。					

【実践領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
助産学実習Ⅳ(地域における母子保健活動)	934	後期	必修	1単位 45時間	実習
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）、 田中由美子（TANAKA, Yumiko）、柴田香菜子（SHIBATA, Kanako）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
適宜調整します。 Y-takeuchi@saku.ac.jp					
授業の概要					
開業助産所の活動内容と助産所管理、地域における助産・母子保健活動ネットワークなど、地域における助産・母子保健活動の実際を知り、助産業務を担う専門職の役割を理解、認識させる。					
到達目標					
1. 助産所における助産業務管理の実際を確認できる。 2. 助産所の活動内容について、地域における機能と役割を考察できる。 3. 母子保健活動分野における助産師の役割および多職種との連携・調整について考察できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
前提となる科目：前期開講科目全て 特に助産学概論、地域母子保健論、助産管理は実習内容に直結する。 並行して関連する科目：助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 後に続く科目：地域母子保健論 ※ <u>助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修するためには、前期開講科目のうち必修科目の単位をすべて習得することが必須条件である。</u>					
授業計画					
実習方法：助産所における助産業務の実際を、実習を通じて確認する。 実習期間：助産所 2021年11月22日～12月4日 実習施設：東御市立助産所とうみ（東御市） 助産所ほやほや（長野市） ※詳細は実習要項参照					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
実習する助産所に関する事前学習、レポート課題のための準備等が必要となる。					
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等					
前期関連科目のテキスト					
成績評価の方法・基準					
実習要項に記載する方法・基準による					
課題に対するフィードバックの方法					
※実習要項参照					
担当教員からのメッセージ					
助産学実習Ⅳでは、特に助産管理に焦点をあて、助産所における助産管理を学びます。組織の運営や地域社会の中での助産師の在り方、役割や多職種との連携・協働について考察していきましょう。					

2021 年度

シラバス 〔関連領域〕

佐久大学別科助産専攻

【関連領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
親子関係発達とケア	917	前期	選択	1単位 15時間	講義
担当教員（○印＝科目責任教員） ○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 授業終了後に質問を受け付ける。 その他研究室（5号館3階301）在室時の時間を調整する。事前に連絡をください。a-yumoto●saku.ac.jp					
授業の概要 現代社会の中で起きている親子の課題・問題を、親子関係の発達という視点から捉え、子どもと家族の誕生に立ち会う助産師ができる親子関係発達への支援の在り方と方法を検討する。 親子関係の基礎となる理論、障害を持つ児の親子関係、児童虐待といった親子関係の病理などを理解し、望ましい親子関係の促進のための援助に資する能力を養う。					
到達目標 1．親子関係、家族関係の基礎理論について説明できる。 2．MFICU・NICUにおける親子関係、家族関係の発達と支援について説明できる。 3．現代における親子・家族発達における背景や家族の多様性について考察し、議論できる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連 家族の心理・社会学、地域母子保健論等の授業から、家族発達支援、地域社会の現状と合わせて学ぶ。 助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳにおいて、実践現場における親子・家族発達に対する支援についてさらに考察を深める。					
授業計画					
回数	授業内容		授業方法	担当教員	
1-2	DVD “うまれる” 視聴 親子関係の基礎理論・親子関係の多様性・法律と親子		講義	湯本	
3-4	長野県立こども病院 総合周産期母子医療センター 見学		見学実習	湯本	
5-6	NICUにおける親子関係発達とケア 1 親子関係発達支援 NICUにおける親子関係発達とケア 2 母乳哺育支援		講義	招聘講師	
7-8	福祉支援を必要とする母子の理解と支援の実際 1 妊娠SOS 福祉支援を必要とする母子の理解と支援の実際 2 子どもの権利と社会的養育		講義	招聘講師	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 さまざまな背景を抱える家族への関心を持ち、新聞、雑誌、書籍なども読み、親子・家族関係の発達を支える現場での実践可能な支援について考える努力をすること。					

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
参考テキスト：助産学講座 4 基礎助産学[4] 母子の心理・社会学 医学書院 ：助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
成績評価の方法・基準
課題レポート 100% 初回に指示します。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
必要時面談を行います。
担当教員からのメッセージ
家族の始まりにおいて現代社会の中で人々が抱える母子・父子・親子関係における課題や問題事項に関心を持ち、自分なりの考えを深める学びを心掛けてください。

【関連領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
不妊症と不妊ケア	942	前期	選択	1単位 15時間	講義
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○竹内良美(TAKEUCHI, Yoshimi) 宮澤香代子 (MIYAZAWA, Kayoko)					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
・授業終了後、教室で質問を受ける。 ・随時、メール（y-takeuchi●saku.ac.jp）で質問を受ける。					
授業の概要					
不妊症・不育症の定義・検査・治療、特に生殖補助医療と不妊女性の心理、不妊カウンセリングの内容と特性、資格等について理解し、不妊症に悩む人へのケアを実践できる基礎的能力を養う。					
到達目標					
1. 不妊の実態と原因・検査、治療について説明できる。 2. 不妊カップルの心理・社会的反応を知り、不妊カウンセリングの内容と特性を述べることができる。 3. 不妊認定看護師の業務や役割・資格等を理解できる。 4. 不妊カップルが適切な検査や治療を受けるための支援を述べることができる。 5. 不妊治療に伴う問題について討議を通して、自己の考えを持つことができる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
・「生殖の基礎科学」、「ウイメンズヘルス」の不妊および不育症の医学的知識がもとなる。 ・不妊症と診断された人への対応の実際を学び、「ウイメンズヘルス」の成熟期女性への支援に応用するものである。					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
1	オリエンテーション 不妊に関する動向、不妊治療による妊娠の動向と女性・家族の思い、 不妊治療がもたらしている課題、について	講義・GW	竹内		
2	不妊治療時期別（経過）のカップルへの看護	講義	外部講師		
3	不妊治療中の対象の心理・悩み・社会的反応・相談の実際	講義	宮澤		
4	不妊治療と治療を受ける対象への不妊認定看護師の機能・役割と支援	講義	宮澤		
5	不妊当事者からの学びと社会的支援（自助グループ）	講義	外部講師		
6	不妊をめぐる課題学習	GW	竹内		
7	不妊をめぐる課題学習	GW	竹内		
8	課題学習のプレゼンテーションと討議	講義／GW	竹内		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
・次回の授業項目のキーワードを教科書を読んでノートに整理する。（講義は予習をもとにすすめる。講義終了時に再度理解度を確認する。） 約45分 ・課題学習時は図書を精読し、疑問点を整理し、デスカッションに臨めるよう紙面に準備する。 約60分					

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等	
テキスト：助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 医学書院 参考図書：河合蘭著 卵子老化の真実 文春新書 ナーシング・グラフィカ 母性看護学1 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版 信濃毎日新聞取材班 不妊治療と出生前診断 温かな手で 講談社	
成績評価の方法・基準	
・事前課題レポート	40%
・課題GWプレゼン資料+GWへの参加度	20%
・最終レポート	40%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
・提出レポート：評価後コメントし、返却する。 ・GWの課題レポート：プレゼン終了後、コメントする。	
担当教員からのメッセージ	
女性の結婚・出産年齢が高くなっている昨今、不妊治療を考慮するカップルは増加傾向にあります。そのような方々に寄り添い、求めている情報を提供できることは助産師にとって重要な役割になります。自らの価値観に縛られることなく最新の知識を客観的に身につけてほしいと思います。	

【関連領域】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態
助産学研究	945	通年	選択	1単位 30時間	演習
担当教員（○印＝科目責任教員）					
○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko）、田中由美子（TANAKA, Yumiko）、竹内良美（TAKEUCHI, Yoshimi）、柴田香菜子（SHIBATA, Kanako）					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法					
随時、メールで質問を受ける。 湯本：a-yumoto●saku.ac.jp 田中：y-tanaka●saku.ac.jp 竹内：y-takeuchi●saku.ac.jp 後期は、各自それぞれの担当教員と面接時間を調整する。					
授業の概要					
助産師が研究をおこなうことの必要性和意義を理解し、事例研究を通して、研究の一連のプロセスとその実際及び研究倫理について学修する。 実習で受け持った事例のまとめを通して、対象の全体をとらえ、母子・家族の課題と支援を考察する機会とする。					
到達目標					
1. 実習での継続事例や受け持ち事例へのケアを研究的にまとめることができる。 1) テーマを設定できる。 2) 事例の妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過を簡潔に述べることができる。 3) 助産過程の展開をテーマに絞ってまとめることができる。 4) 文献や理論を活用し、得られた結果や反応の意味を明確にできる。 5) 看護実践への示唆を見出すことができる。 2. 作成したレポートをプレゼンテーションすることができる。					
当該授業科目と他の授業科目との関連					
・助産学実習Ⅰ～Ⅳで対象に実践した助産ケアに立脚して展開する。 ・妊娠期の診断とケア、分娩期の診断とケア、産褥期の診断とケア、新生児期の診断とケアの助産技術がケア実践のもとになる。					
授業計画					
回数	授業内容	授業方法	担当教員		
前期					
1-2	人に伝える技術１：Word, PowerPointの使い方	演習	学内講師		
3-4	人に伝える技術２：Excelの使い方	演習	学内講師		
5-6	人に伝える技術２：文献検索の方法	演習	学内講師		
7	助産ケアをレポートにする	講義	湯本		
8	文献抄読	演習	湯本・田中 竹内・柴田		
後期					
9	レポート作成・発表資料作成	演習	各担当教員		
－ 13					
14-15	事例レポート発表	演習	湯本・田中 竹内・柴田		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・ 関心のあるテーマで文献を探し、読んで概略をまとめる。（1～2時間） ・ レポート作成プロセスにおいて課題を提示します。 ・ 指導教員と事前にアポイントをとり、指導を受けられるよう準備してください。（3.5～4時間） ・ 指導後は指導箇所を文献等を用い、修正・加筆してください。（3.5～4時間）
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 参考文献：早川和生編著(2012) JJNスペシャル看護研究の進め方 論文の書き方 第2版. 医学書院 斎藤博之 佐藤健一編(2010) JJNスペシャル医療者のための伝わるプレゼンテーション. 医学書院 松本孚 森田夏実編(2009) 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方. 照林社 指導の中で、適宜提示することがあります。
成績評価の方法・基準 事例研究レポート 90% レポート発表 10%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 各担当教員から指導の都度、口頭によりフィードバックを行う。 プレゼンテーションの席上でコメントと評価を口頭で行う。 レポートは研究抄録集としてまとめ、配布する。
担当教員からのメッセージ 自らが実施した助産をまとめ直し客観的に評価してみることは、根拠ある実践をするうえでとても意義があることです。また、文献を活用して思考すること、ディスカッションをとおして思考することの訓練もしてください。